
マウンドに雨が散る

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マウンドに雨が散る

【Nコード】

N1680F

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

雷雲広がる、いまにも雨が降りそうな、ある日。部品の片付けをしている>俺くを、監督が呼び止める。別れ的一幕。「その他」からジャンルを移しました。

今にも雨が降りそうだ。ゴロゴロと耳障りな重い音が、空から響いてくる。

土も幾分湿っている。この調子でいくと、午後の練習は中止になるだろう。

そんなことを考えながらバットを片付け、部室に戻ろうとしたときだった。

「おい」

監督の声に、周りの部員が振り返る。が、俺が呼ばれているのがわかると、足早に部室の奥へ引っ込んでいく。話の内容は皆がわかっていた。

カーテンの隙間から、悲痛な視線が送られてくる。逃れるように、俺はグラウンドへ続くじやり道に踏み出した。

「西澤はもう、決めたんでしょう?」

「……なんだ、知ってたか」

噂になってることくらい知ってるくせに。

「噂になってます」

「そうか」

監督の高い鼻筋の上に、汗が浮いている。ゴロゴロゴロ、雲が息巻く。

監督はずいぶん、疲れているように思えた。

「アイツ、いつから練習に戻るんスかね」

「今日の午後からちゅうことになっていたが。コリヤ、無理だろうな」

「そうすねえ」

二人して、空を見上げる。

「……おまえは、どうなんだ」

監督は目を合わそうとしなかった。

「いいのか、これで」

監督は、俺の右手をじつと見ていた。

ピッチャーマウンドから見えるアイツの姿が、さっと浮かんできた。

「……いや、それは、西澤が自分で決めたことだから」

「……そうか」

監督は少しだけうなだれた。

右手や、頭の芯がむずむずして気持ち悪かった。でも、どうしようもなかった。どうすることもできなかった。

「向こうに行くのは来月の第二日曜だから、それまでは、西澤に。あとは村田に引き継がせる」

監督の話を聞きながら、俺は風のおいを嗅いだ。潮の香りがあった。近くに海と、ランニングにも使うキレイな浜辺がある。

「わかりました」

返事をしたそのとき、北の空に稲妻が走った。グラウンドが僅かに照らされる。

まんなかに、ぽつんと、ピッチャーマウンドが浮きあがる。

……取り残される。

「か、監督」

雷鳴が轟く。

メットの中の、アイツの笑顔がよみがえる。

「あの、ホントは。すごく……」

西澤。もっと、わかっててほしかった。

マウンドに立ったときの、ミットの存在。お前のサイン。これが、どれだけでかいもんなのか。お前がどれだけ、俺の支えになっていたか。

俺は一人だ。お前が、いないと。

「……そうだよなあ」

監督の声が遠くに聞こえた。雨音がぱたぱた、俺の足元で響いて、消えていった。

（後書き）

読んでいただいて嬉しいです。

随分前に、ノートにしたためたものです。改変して投稿してみました。

「ぱたぱた」「消える」を使ったラスト一文は前にも書いたことがあります…もっと表現豊かにしたいものです。

もし感想などありましたら、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1680f/>

マウンドに雨が散る

2010年10月10日05時10分発行